

人 チーム 制度



女性社員とともにアドバイス！ 仕事大好きな若手ワーキングママを、セーブしながら支えるイクボス

(株)建設環境研究所 もりた まさゆき 森田 正之さん

今回ご紹介するのは(株)建設環境研究所 都市環境部を管理する森田正之さん。「早く復職したい」「仕事をセーブしたくない」というワーキングママの意思を踏まえつつ、産後の体力面にも配慮した管理をしていらっしゃいます。

今回復職した社員の、産休前の立場、仕事の状況をお教えてください。

バリバリ仕事を進めてくれる若手社員でした。

新しい部署ができたばかりで、新規業務が大きいく動き出すタイミングであり、業務の中心的役割を担ってもらおうと考えていました。

妊娠の報告を受けたタイミングはいつ頃でしたか？また、周囲への報告はどのようにしましたか？



インタビューの様子

報告は、初夏頃（妊娠初期）でした。まだ業務が本格的に動き出す前の立ち上げ時期でした。

報告を受けた後、部門長、管理本部長へ報告し、その後早い段階で、グループ会議で部内メンバーへ報告したと思います。

本人の要望はどのように把握しましたか？

2回ほど面談を行いました。こういう時、「男は役に立たないなあ」と思いました（笑）。社内の女性社員に面談に同席してもらい、彼女たちからもア

プロフィール

氏名 : 森田 正之(46)
所属 : (株)建設環境研究所
都市環境部
勤続年数 : 22年目
役職 : 都市環境部 部長
資格 : 技術士
(総監、建設、環境)
環境計量士
(騒音・振動、濃度)

ドバイスするような共に話す機会を持ちました。

本人からの要望は、「なるべく働きたい」「ギリギリまで仕事をし、産後6週間で復職したい」「復職後も仕事をセーブしたくない」というものでした。

本人の思いに対し、管理職としてどのような対応をとりましたか？

これが一番頭の痛い問題でした。労働基準法では「産後8週間経過しない女性を就業させることができない」「産後6週間でも医師が支障がないと認めた場合、業務につかせることは差し支えない」とあります。本人は産後6週間で復職したいと強く要望していましたが、我々としては、大事を取って欲しくせめて産後8週間まで休んで欲しいと思っていました。

結局、医師の判断もあり、産後8週間後の復職となりましたが、今でも何が正解だったのかわかりません。

復職後の対応をお教えてください。

出張が必要となる遠方の業務は避け、内業中心としました。業務内容や契約形態の変更は行なっていません。本人は、妊娠前のように仕事がしたいという思いが強いので、不満が溜まっているかもしれませんが、相談しながら、徐々に希望の形にしていきたいと思います。

部全体の管理の中で、苦勞した点はありますか？

業務立上げ段階で報告してもらったこともあり、業務への支障を抑えることができました。部内メンバーも理解してくれており、むしろ、きちんと休むことに皆同意してくれました。

その他、ワークライフバランスを考えながら、組織の業績に結果を出すコツがあればお教えてください。

まだまだ今後の課題ですね。今回は比較的特殊なケースだと思いますし、うまく対応できているのか迷う部分があります。今後も本人と話し合いながら進めていくものなのだろうと思います。

部の紹介

メンバー : 部長、社員 20名
年齢構成 : 20代 2名、30代 6名
40代 5名、50代 4名
60代 3名
男女比 : 17 : 3
主な業務 : 風力発電施設、道路事業
を中心とした環境アセ
スメント など